

斜面住宅団地の交通意識に対する調査研究

広島工業大学大学院 学生会員 渡辺 昂
 広島工業大学大学院 学生会員 田中 晶生
 広島工業大学 正会員 大東 延幸
 株式会社ヒロコン 正会員 今井 隼平

1. 研究背景

広島市は地形上の制約で平坦部分の占める割合が少なく山々を切り開いた斜面住宅地に人口が集中している。しかし、近年高齢化が進む中、今までのように自動車で行動することが困難になる可能性がある。本研究では、このような背景を踏まえ、上記のような住宅地である美鈴が丘住宅団地、彩が丘住宅団地、及び平地である石内地区の交通に関する意識調査を行った。

2. アンケート実施概要

本研究では、住宅団地の交通の実態と、それに伴う住民の移動に関する意識を把握する為、日常的な買い物や通院をしている方を対象とするアンケート調査を行なった。今回、このアンケートの配布方法は、自治体を通して各街区、全丁目に配布・回収を行なった。そのアンケート調査による調査概要は、表 - 1 に示す。

表 - 1 アンケート調査概要

調査の種類	アンケート調査		
調査対象	美鈴が丘住宅団地	彩が丘住宅団地	石内地区
調査期間	平成18年4月~7月上旬	平成18年11月~2月上旬	平成19年6月~8月下旬
配布枚数	3626部(全世帯)	1250部(全世帯)	520部(全世帯)
回収枚数	2105部	522部	324部
回収率	58.10%	41.76%	62.30%
調査内容	・調査対象者の属性 ・自動車免許、自家用車の保有状況 ・買物通院時の移動手段 ・現公共交通に関する住民の意識		

3. 調査結果

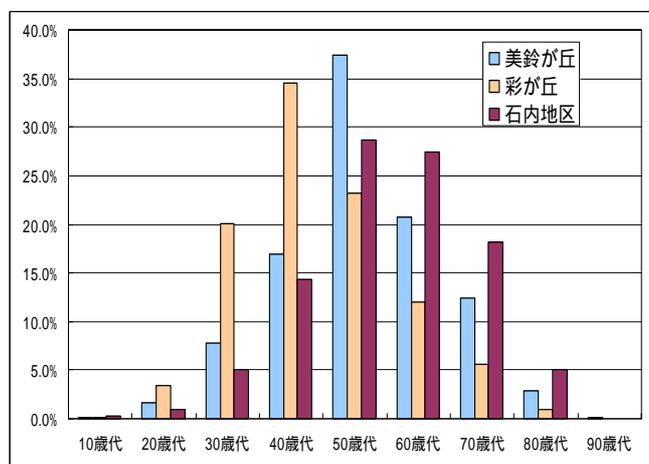


図 - 1 各地区の年齢構成比較

図 - 1 は各地区における年齢分布の比較を示したグラフである。彩が丘住宅団地は他の2地区に比べて新しくできた団地である。

図 - 2 は各地区における現在の交通分担率を示したものである。

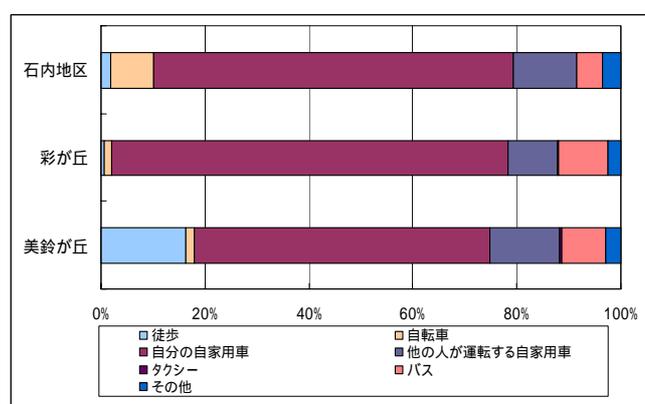


図 - 3 各地区の交通分担率

図 - 3 は各地区における現在の交通に対する満足度の比較を示したものである。

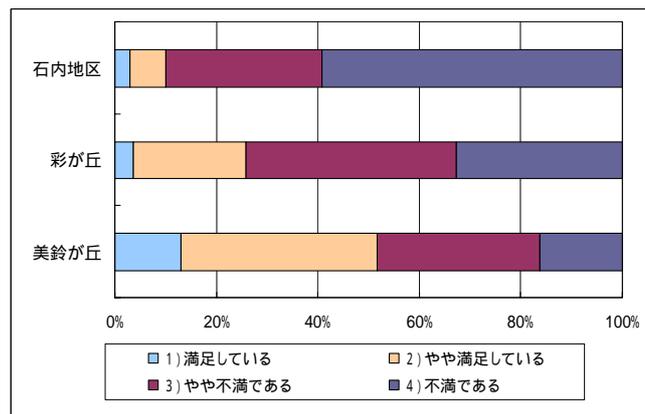


図 - 3 各地区の交通満足度の比較

石内地区では約90%もの人が「不満である」、「やや不満である」と回答しており。これは地区内にスーパー等の小売店がないことに加えて、地区内の道が狭く、自家用車の運転が難しくなっていることが理由に挙げ

られると考えられる。

図 - 4 は三つの地区間における現在の交通に対する不満点を比較したものである。

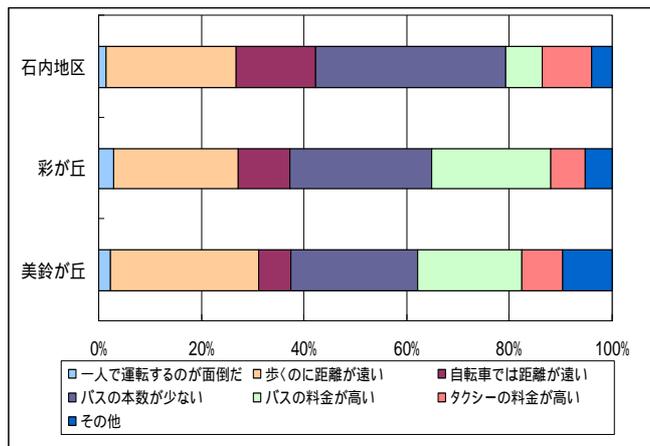


図 - 4 現在の交通に対する不満点の比較

『歩くのに距離が遠い』『自転車では距離が遠い』といった距離に関する回答が多くなっている。次いで、『バスの本数が少ない』『バスの料金が低い』という回答になっており。このことより、買い物をするためのスーパーなどは距離のある遠い場所にあるが、バスなどの公共交通は充実していないという住民の、この地区に対する現在の交通の意識が読み取れる。

図 - 5 は三つの地区間における買い物交通不満解消法の比較を示したグラフである。図よりどの地区においてももっとも多かった回答は『バスの本数を増やす』という回答であった。中でも石内地区は80%弱の人がバスの本数を増やしてほしい、という回答であった。

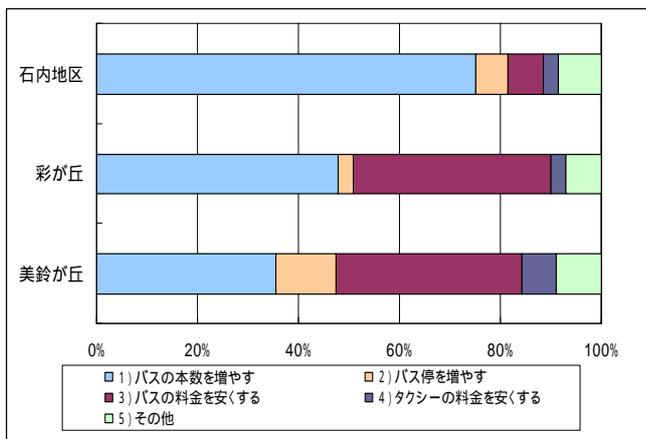


図 - 5 三つの地区間の買い物交通不満解消法の比較

この結果より石内地区ではバスの本数が少ないとほとんどの人が感じている。このことより金銭的・時間

的な負担感等と違い、根本的にバスの利用が困難である、ということを示していると考えられる。

今回のアンケート調査では巡回バスの導入に関する質問も行った。図 - 6 は巡回バス導入に関する意識の各地区の比較したものである。

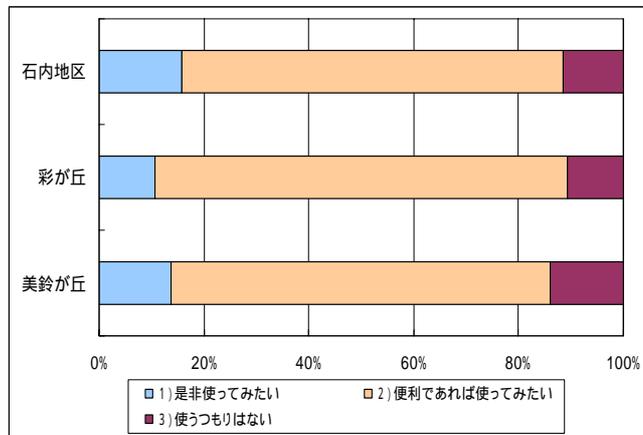


図 - 6 巡回バス導入に対する意識の各地区の比較

全ての地区で「是非使ってみよう」、「便利であれば使ってみよう」を合わせると、80%を超える回答が得られた。さらに、アンケートの自由意見欄でも上位に「バスの運行頻度の見直し」、「バスルートの再編」など、現在の公共交通でも便利になれば使いたいという公共交通に対して前向きな意見が多く見られた。

4. まとめ・今後の課題

本研究では、美鈴が丘住宅団地、彩が丘住宅団地と2つの斜面住宅団地に加え、石内地区という平地の地区でのアンケートを行うことによって、斜面と平地という地理的条件の違う場所での住民の意識の違いを明らかにできた。また2つの斜面住宅団地においても、団地内に買い物施設がある美鈴が丘住宅団地と、団地内に買い物施設の存在しない彩が丘住宅団地とで、条件の違う斜面住宅地に、条件の違う場所での住民の意識の違いを調べることができた。いずれの地区も各地区からのショッピングセンターへの買い物交通に関する公共交通が充実していないため、住民は自家用車に頼らざるを得ない状況にあると考えられる。今回の研究にあたって、調査にご協力いただいた、各地区の自治会の皆様方と住民の皆様方に感謝いたします。

【参考文献】

- 1) 大東, 今井, 田中: 斜面住宅団地の住民の交通に関する意識の調査研究, 第35回土木計画学研究会発表会・講演集 2007